

食品安全情報 No. 5 / 2004 (2004. 03. 03)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>)

微生物・化学共通トピックス	--- page 1
食品微生物関連情報	--- page 2
食品化学物質関連情報	--- page 10

微生物・化学共通トピックス

FAO <http://www.fao.org/>

食品の安全性および品質に関する最新情報 No.14

Food Safety and Quality Update – No.14 (February 2004)

FAO's Food Quality and Standards Service

オンラインで入手可能な情報

- ・ 生鮮野菜・果物の品質と安全性に関するデータベースとトレーニングマニュアル
www.fao.org/es/esn/fv/
www.fao.org/es/ESN/food/foodandfood_fruits_en.stm
- ・ 粉末調整乳に含まれる病原体に関する要約
www.fao.org/es/ESN/food/risk_mra_riskassessment_entero_en.stm
- ・ JECFA 64 がデータ募集
ftp://ftp.fao.org/es/esn/jecfa64_call.pdf
- ・ JECFA 62：食品中の残留動物用医薬品：要約および結論
ftp://ftp.fao.org/es/esn/jecfa/jecfa62_summary.pdf
- ・ JECFA 食品中の残留動物用医薬品の毒性評価
www.who.int/bookorders

お知らせ

- ・ コーデックスへの科学的助言のあり方に関する FAO/WHO 合同ワークショップ
近日中に報告書要約が次のアドレスから公開予定
www.fao.org/es/ESN/proscad/workshop_en_stm
- ・ FAO/WHO 合同食品安全アセスメント
- ・ ニュースレター アーカイブ入手先
www.fao.org/es/esn/fsqu_en.stm
ウェブサイト：www.fao.org/es/ESN/index_en.stm
ftp://ftp.fao.org/es/esn/fsq_update/14.pdf

食品微生物関連情報

WHO CSR

<http://www.who.int/csr/en/>

アフリカにおける最近のコレラ発生動向

Recent outbreaks of cholera in Africa

February 18, 2004

ブルンジ

2003年12月初旬以降、複数のコレラ集団発生が起きている。2004年2月10日現在、Budanza, Bujumbura, Bururi および Citiboke で236人の患者(死亡者6人を含む)が報告され、WHO チームが調査を行っている。安全な給水設備が欠如しているため、飲料水の塩素処理に重点がおかれている。

カメルーン

カメルーンでは、Douala 市周辺に1件の発生があり、患者514人、死亡者13人(患者の2.5%)であった。

マリ

2004年初め以来、コレラの発生が続いており、Mopti, Segou および Timbuctou で患者280人、死亡者33人(患者の11.8%)が報告されている。国中のいくつもの集団に広がっているため、管理が困難になっている。

モザンビーク

2003年12月20日から2004年2月16日までの間に、6地域(Gaza, Inhambane, Maputo, Nampula, Sofala, Zambezia)で患者9,391人と死亡者61人の報告があった。最も多いのがMaputoで患者6,124人、死亡者32人である。先週は豪雨がなく、患者は減少した。

南アフリカ

Mpumalanga の Nkomazi, で1件の発生があり、2004年2月11日現在、患者179人、死亡者5人(患者の2.8%)である。

ザンビア

Lusaka 市を中心にコレラの発生が続いている。2004年2月9日現在、患者3,8351人、死亡者179人(4.7%)が報告されている。

http://www.who.int/csr/don/2004_02_18a/en/print.html

USDA-FSIS

<http://www.fsis.usda.gov/index.htm>

クラスIリコール、*E. coli* O157:H7 汚染の可能性により、牛ひき肉製品約90,000ポンドを回収(米国)

California firm recalls ground beef products for possible *E. coli* O157:H7

February 24, 2004

米国、カリフォルニア州の Richwood Meat Co., Inc.が、*E. coli* O157:H7 汚染の可能性があると、冷凍牛ひき肉製品および牛肉パティ約 90,000 ポンドを自主回収している。同製品は 2003 年 8 月 11 日に製造され、極東の米軍、カリフォルニア、ワシントン、オレゴンおよびアイダホに配送された。今回の回収は、沖縄で患者が発生し牛肉パティから *E. coli* O157:H7 が確認されたことによる。今のところ米国内での感染者の報告はない。

<http://www.fsis.usda.gov/oa/recalls/prelease/pr007-2004.htm>

The Canadian Food Inspection Agency (CFIA)

<http://www.inspection.gc.ca/english/toce.shtml>

ブリティッシュコロンビア州で鳥インフルエンザ発生

Avian Influenza Detected in British Columbia

February 19, 2004

カナダのブリティッシュコロンビア州で鳥インフルエンザ H7 が確認された。高病原性であるか否かは検査中である。Health Canada は人間へのリスクは低いとしており、現在の段階では動物 動物感染、感染した動物に接触する人間のリスクに重点をおいている。養鶏場は隔離され、約 16,000 羽が処分されることになっている。カナダは 1975 年以降、低病原性の H5 および H7 感染例が 3 件あり、最も新しい事例は 2000 年オンタリオ州から報告されたものである。

さらに詳細な情報については以下のサイトをご覧ください。

<http://www.inspection.gc.ca/english/toce.shtml>

・ Main Page-Avian Influenza

<http://www.inspection.gc.ca/english/corpaffr/newcom/2004/20040219e.shtml>

Eurosurveillance weekly

<http://www.eurosurveillance.org/index-02.asp>

イングランドとウェールズの *Salmonella* Enteritidis フェージタイプ 14b 感染に関するケースコントロールスタディにより、ケイタリングの卵料理が原因食品として特定される

National case-control study of *Salmonella* Enteritidis Phage Type 14b infection in England and Wales implicates eggs used in the catering trade

February 19, 2004

2003 年、イングランドとウェールズにおいて *Salmonella* Enteritidis フェージタイプ 14b 検出が増加したため、患者 55 人と対照 102 人からなるケースコントロールスタディを行ったところ、主な感染源は家庭外での食事、特にケイタリング食品である可能性が高いことが

わかった。2001 年以前、1 年間に確認された *S. Enteritidis* PT14b 患者は 200 人未満であったが、2001 年以降急激に増加し、2003 年は 922 人であった。2002 年に起こった集団発生の調査の際、スペイン産卵から *S. Enteritidis* PT14b が分離された。分子タイピングの結果、2003 年の臨床分離菌と 2002 年のものとは同一株であり、2003 年の発生は 2002 年から継続して同じ感染源によると考えられた。英国当局はケイタリング業者に、十分に火を通さない料理には殻付き生卵を使用しないよう呼びかけている。

<http://www.eurosurveillance.org/ew/2004/040219.asp#1>

アイルランド食品安全局 FSAI

<http://www.fsai.ie/>

1. アイルランドの給水に対する EPA の報告書：食品産業との関連警告

EPA Report on water supplies in Ireland: Implications for food businesses

Alert Notification: 2004.04 16 February 2004

EPA が 2002 年のアイルランドの水供給についての報告書を発表した。その報告ではアイルランドで供給されている水に様々なレベルで糞便汚染が見られ、これらが健康被害をもたらす可能性があるとしている。公共の上水 (Public Water Supply) では検査した 886 施設 14,810 検体のうち 235 (1.6%) に大腸菌が検出され、一年を通して汚染がなかった施設は 768(84.6%) だけであった。地域給水 (Group Water Scheme) では 1868 施設 4637 検体を検査し、887(19.1%) が大腸菌陽性であり、2002 年に汚染がなかった施設は 1384(74.1%) のみであった。アイルランドには地域給水施設は 5500 あり、検査対象とならなかった施設でも汚染の可能性は高い。従って食品産業関係者には、製品の製造に使う水に微生物がないという前提で作業を行わないよう勧告している。

http://www.fsai.ie/alerts/fa/fa_04/fa20040216.asp

1. アイルランドにおける Zoonosis 報告書

Zoonoses in Ireland

アイルランドにおける初めての Zoonosis 報告書が、*Report on Zoonoses in Ireland 2000 & 2001* として出版された。*Salmonella*, *E. coli* O157:H7, 結核、ワイル病、TSE と nvCJD などについての記載がある。

<http://www.fsai.ie/publications/reports/Zoonosis%20report.pdf>

フランス食品安全局 AFSSA

www.afssa.fr/

カンピロバクターに関する報告書

Afssa は 2 月 12 日に、*Campylobacter* の食品汚染に関するリスク評価 - 食鳥と *Campylobacter jejuni* への適用の報告書を発表。

以下のリンクからダウンロード可

<http://www.afssa.fr/Ftp/Afssa/22208-I.pdf>

ProMed Mail

<http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1000>

1 . シカ、原因不明の死亡 (米国) : 情報募集

Undiagnosed Deaths, Cervids – USA (Wyoming): Request for Information

February 28, 2004

米国ワイオミング州で、この 3 週間に 275 頭のシカが死亡、または麻痺状態で見つかった。ほとんどが繁殖期のシカであった。獣医によ原因調査では、慢性消耗病、寄生虫感染、麻痺性細菌感染が否定され、天然または人工の毒素による中毒に焦点が当てられている。一方、病理学者の調査によると、塩類中毒、殺虫剤、化学肥料、硫酸塩、重金属（砒素、セレン、タリウム）が否定されている。

http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:2034456101867342182::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,24618

2 . ウシ、原因不明の死亡 (ベトナム)

Undiagnosed Deaths, Bovine – Viet Nam (Phu Yen)

February 28, 2004

ベトナム中央部 Phu Yen で、17 頭の健康なウシが呼吸困難に陥った後 1 時間以内に、眼、鼻、耳、肛門から出血して死亡した。

http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:2034456101867342182::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,24614

3、バングラデシュのニパ様ウイルスについて最新情報

Nipah-like virus in Bangladesh – Update

February 26, 2004

検査の対象がさらに 51 人増加した。これは、WHO の専門家チームによって行われている確定症例とデータの見直しの結果、増加したものである。感染は Rajbari, Manikganj, Jaipurhat, Naogang および Faridpur の 5 つの地域で起こっている。

http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:2034456101867342182::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,24596

4 . 原因不明の疾患により小児が死亡 (アフガニスタン)

Afghanistan: Mysterious Disease Killing Children in Badakhshan Province

February 25, 2004

アフガニスタン北部の Badakhshan で、原因不明の疾患により、先月中に 300 人以上の小児が死亡した。インフルエンザに似た症状が現れ、その後呼吸が停止するため、呼吸器系の疾患と考えられている。発生場所が散在しているため、正確な数の把握や救助活動が困難になっている。

http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:2034456101867342182::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,24589

5 . ブタに原因不明疾患 (オーストラリア)

Australian pig farm hit by “mysterious disease”

February 21, 2004

オーストラリアのビクトリア/ニューサウスウェールズで、ブタの胎児と子豚が原因不明で死亡した。数も不明である。成長したブタや人間へのウイルスの感染はない。

http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:5298007742161006583::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,24544

2/21 の「ブタに原因不明疾患」続報 (オーストラリア ; ビクトリア、サウスウェールズ)

Undiagnosed Disease, Swine – Australia (Victoria/New South Wales) (02)

February 23, 2004

NSW の 2 つの養豚場に発生したブタ心筋炎(PMC)の続報。PMC は、生後 5 週以下の子豚のみが発症する疾患であり、通知が義務付けられている。臨床的には死産や離乳前の死亡、ミイラ変性胎児が増加する。主に子宮のウイルス感染によって発症すると考えられている。諸検査により、PCV2 感染は除外された。また、風土病として以前にオーストラリアのブタに認められた EMC, ブタバルボウイルス、PCV1, PCV2, BVDV も除外された。外来性としては、FMD, PRRS, オーエスキー病、豚コレラが除外された。電顕により 19~27nm のウイルス様粒子が観察され、新たな病原体である可能性も考慮されている。今のところ 5 週以上のブタには PMC の証拠がない。人間や食品安全への影響はなく、市場に出されたブタには疾患の徴候は認められていない。

http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:5181846968950253436::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,24570

6 . 人間への鳥インフルエンザ H7N7 感染について (オランダ)

The Netherlands: Transmission of Avian Influenza A (H7N7) Virus to Humans

February 21, 2004

2月21日付け Lancet の論文の要旨から。オランダで 2003 年 2 月、高病原性鳥インフルエンザ H7N7 が発生した。人間への感染の可能性は低いと考えられたが、養鶏場での労働者や

家族を対象に調査が行われた。453 人が異常を訴え、349 人が結膜炎、90 人がインフルエンザ様症状、67 人はその他の異常であった。結膜炎のみの患者のうち 78 人(26.4%)、インフルエンザ様症状と結膜炎の患者のうち 5 人(5.4%)、インフルエンザ様症状のみの患者のうち 2 人(5.4%)、その他の患者のうち 4 人(6%)に、A/H7 が検出された。3 人の接触者に A/H7 感染が確認され、このうち 1 人はインフルエンザ症状を呈していた。A/H3N2 に感染した者が 6 人いた。予想外に多くの人に H7N7 ウイルスが伝播していたため、人 - 人感染の証拠にも注目し、綿密な調査、発生に対する準備が重要と考えられる。

http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:5298007742161006583::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,24550

7 . 哺乳類の鳥インフルエンザ H5N1 (東アジア)

Avian Influenza H5N1, Mammals – East Asia

February 21, 2004

タイでペットのネコ 3 匹が鳥インフルエンザで死亡し、また、動物園の白トラ 1 頭の感染が見つかった。いずれにも H5N1 が検出され、鶏のウイルスと遺伝子配列が 100%一致していた。ネコから人間への感染は不明であるが、養鶏地域ではネコとの接触を避けるよう注意を呼びかけている。家庭で飼養される哺乳動物が鳥インフルエンザによって死亡したのはこのネコが初めてであり、ペットは人間との接触が密であるため、危険な状況と考えられている。トラは回復したが、この動物園では 2004 年 1 月にウンピョウ(clouded leopard)が鳥インフルエンザによって死亡している。哺乳類への鳥インフルエンザ感染、特に人間と遺伝子が類似しているブタへの感染が懸念される。

http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:5298007742161006583::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,24549

8 . シカの慢性消耗病 (カナダ)

Chronic Wasting Disease, Cervids Canada (Saskatchewan)

February 18, 2004

2003 年秋の消耗病(CWD)検査再開以来、カナダの Saskatchewan 州 で 19 頭のミュールジカが陽性となり、昨年の合計のほぼ 2 倍となった。このうち 1/3 は Saskatchewan Landing 州立公園の herd reduction area 境界外で発見されたシカである。蔓延の可能性が考えられるため、さらに調査が進められている。

http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:5298007742161006583::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,24510

FSNET

<http://131.104.232.9/fsnet-archives.htm>

1 . マニトバ大学が病原体の肥料と食品中での生存性を研究

U of M research examines pathogen survivability in the food chain

February 27, 2004 年

Farmscape (Episode 1456)

マニトバ大学が、ブタの糞を利用した肥料について、肥料を牧草地に使用する際の環境への影響、栄養価、その牧草を食べるウシへの影響、肥料中病原体の食品生産ラインでの生存能力を評価する研究を行っている。

http://131.104.232.9/fsnet/2004/2-2004/fsnet_feb_27.htm#story0

2 . Schratte Foods 社がブリーチーズとカマンベールを回収

Schratter Foods has recalled ILE DE FRANCE 4.5 Oz. tins of brie and camembert cheeses

February 27, 2004

Safety Alerts

米国ニュージャージー州の Schratte Foods Inc.が、ILE DE FRANCE ブランドの Brie Soft Ripened Chees 4.5oz(125g)缶詰と、同ブランドの Camembert Soft Ripened Cheese 4.5oz(125g)缶詰を、ボツリヌス菌汚染の可能性があるととして回収している。

http://131.104.232.9/fsnet/2004/2-2004/fsnet_feb_27.htm#story3

3 . Creekstone Farms が BSE の全頭検査を計画

Creekstone lays plans to test 100 percent, bust through beef ban

February 26, 2004

Daniel Yovich

米国の Creekstone Farms は、日本や韓国から要求を満たす検査を条件とした輸入再開の確約を受けて検査の見直しを行い、アジア市場への輸出再開のため BSE の全頭検査を計画している。しかし、この計画は農務省に議論をもたらし、業界の一部にも不評である。USDA は全市場に与える影響を恐れ、また独自の検査による製品を市場に出す権利は Creekstone 社にはないとしている。一方、同社は、USDA に検査を妨げる権限はないと主張し、全頭検査に反対する根拠を示すよう要求している。

http://131.104.232.9/fsnet/2004/2-2004/fsnet_feb_26.htm#story6

4 . Pharmaca Integrative Pharmacy 社がウシの危険部位を含むサプリメント販売を中止

Mad cow disease and supplement safety at Pharmaca Integrative Pharmacy

February 24, 2004

From a press release

米国の Pharmaca Integrative Pharmacy 社が、ウシの脳、頭蓋、眼および脊髄由来の原料を含むサプリメントの販売を中止した。米国保健社会福祉省が、ウシの脳、眼、神経組織

由来物質をサプリメントや化粧品の原料として使用することを禁止する意向であることを受けたものである。

http://131.104.232.9/fsnet/2004/2-2004/fsnet_feb_24-2.htm#story4

5 . テキサス州で A 型肝炎

Texas hepatitis

February 23, 2004

Food Safety Update #34

米国のテキサス州 Cameron County で 20 人以上の A 型肝炎患者が報告され、A 型肝炎に関する注意が出された。2 月最初の 2 週間に Rudy's Country Store and Barbecue で食事をした客が受診するようアドバイスされている。

http://131.104.232.9/fsnet/2004/2-2004/fsnet_feb_23.htm#story2

6 . vCJD 用の新しい血液検査

Presenting potential new blood tests for vCJD

February 23, 2004

Microsens Biotechnologies – Press Release

Microsens 社が、TSE の体液の生前検査に Seprion リガンドシステムを応用して、血液中の異常プリオンを検出する研究を進めていることを発表した。同社は、異常プリオンタンパク(PrPres)または PrPres の集合体を認識して強く結合する特異的高分子化合物を開発した。迅速で感受性の高い新世代の生前 TSE 検査として、すでに 2 つの診断機器会社によってライセンスを供与されている。この検査はヒツジ血液の実験で白血球分画中の異常プリオンも認識することが示されている。同社では、人間の vCJD に関する血液検査にこの技術を応用するための研究も開始している。最近輸血による vCJD 感染の可能性が発表されたため、vCJD 血液検査の開発は非常に有用な手段となる。

http://131.104.232.9/fsnet/2004/2-2004/fsnet_feb_24.htm#story9

食品化学物質関連情報

FAO (Food and Nutrition)

(http://www.fao.org/es/ESN/index_en.stm)

1 . JECFA 第 62 回会合の要旨

Summary and Conclusions of the sixty-second meeting. Residues of veterinary drugs in foods. Rome, 04-12 February 2004.

ftp://ftp.fao.org/es/esn/jecfa/jecfa62_summary.pdf

動物用医薬品の食品中への残留の安全性評価

食品となる動物に使われる医薬品について ADI 及び MRL を設定

品目は、抗生物質 cefuroxime, chloramphenicol, flumequine, lincomycin, pirlimycin, 殺虫剤の cyhalothrin, cypermethrin & alpha-cypermethrin, doramectin, phoxim, 産生補助剤の melengestrol acetate, ractopamine。

2 . FAO/WHOによる遺伝子組換え動物（魚を含む）由来食品の安全性評価最終報告書が webページに収載された。

FAO/WHO Expert Consultation on the Safety Assessment of Foods Derived from Genetically Modified Animals, including Fish (Rome, 17–21 November 2003)

ftp://ftp.fao.org/es/esn/food/gmanimal_report_en.pdf

安全性確保のための方法、今後の課題などについて提言している。

EU (Food Safety: from the Farm to the Fork)

(http://europa.eu.int/comm/food/index_en.html)

1. EU の新しい食品衛生規則が官報告示された。

EU が、より高い水準で消費者保護を行うため、食品衛生規則を改定した。

Common positions on new EU food hygiene rules

No1 では一般的食材の衛生基準、No2～4 では動物起源の食材について記載している。

No1.

<http://europa.eu.int/eur-lex/pri/en/oj/dat/2004/ce048/ce04820040224en00010022.pdf>

No.2

<http://europa.eu.int/eur-lex/pri/en/oj/dat/2004/ce048/ce04820040224en00230081.pdf>

No.3

<http://europa.eu.int/eur-lex/pri/en/oj/dat/2004/ce048/ce04820040224en00820130.pdf>

- 米国 FDA / CFSAN (Center for Food Safety & Applied Nutrition)
(<http://www.cfsan.fda.gov/list.html>)

1 . FDA は消費者に対し、「エクスタシー」のハーブ版として売られているグリーンホーネット Green Hornet を買わないよう警告

FDA Warns Consumers Not to Purchase Green Hornet, Promoted as Herbal Version of "Ecstasy" (February 25, 2004)

<http://www.fda.gov/bbs/topics/NEWS/2004/NEW01026.html>

FDA は、違法なストリートドラッグ「エクスタシ - 」のハーブ代用品としてインターネットや店舗で販売されている液体 Green Hornet を、買わないように警告した。この製品には市販薬成分のジフェンヒドラミン diphenhydramine、デキストロメトルファン dextromethorphan が含まれ、FDA はこれを未承認新薬と考えている。

FDA は最近 4 人の十代の青年がグリーンホーネットを飲んで痙攣・心拍数増加・発疹・高血圧をおこし救急病院に運ばれたという報告を受け、グリーンホーネット単独、あるいは他の薬物との相互作用で重大な有害反応を引き起こしたのかどうか調査中である。

FDA のコミッショナーは、「いわゆる "安全" といわれるストリートドラッグ代替物すべてについても同様で、これらは安全でない。そういった製品を買ったり飲んだりしてはいけない。」と述べている。FDA はこうした製品を市場から撤退させるためにあらゆる手段を取るし、そうした製品を販売する者には罰則を課すとしている。

今回問題になったグリーンホーネットは、コロラド州の店で販売したものであり、この店は Web サイトも開いていたが、現在は販売を停止している。この製品の表示には製造業者が記載されていなかった。表示には多数のハーブが記載されていたが、FDA の分析で医薬品成分であるジフェンヒドラミンとデキストロメトルファンが検出された。

FDA はストリートドラッグ代替物として製造・販売・流通されているさまざまな製品に対する対策をとっている。含有されている医薬品有効成分が正しく表示されていない製品は連邦食品医薬品化粧品法 (Federal Food, Drug, and Cosmetic Act) 違反であり、押収や差し止め命令など強制執行の対象になる。

[RSSL Pharma.com (<http://www.rssl-pharma.com/nat-e-news/>) の Natural e-News 23 (February 2004) によれば、Green Hornet と同じ店で購入した同様の製品 Orange Butterfly でも同じ地域で入院患者が出ている。]

英国 食品基準庁 (FSA : Food Standards Agency) (<http://www.food.gov.uk/>)

1 . FSA は「フレッシュ (新鮮)」「ピュア (純粋)」「ナチュラル (天然)」といった表示が未だに誤解を生じさせるものであることを明らかにした。FSA は製造業者にガイドラインに従うよう勧告した。

Food Standards Agency reveals some labelling terms, such as Fresh, Pure and Natural still mislead - Agency encourages more food manufacturers to follow best practice guidelines. (12 February 2004)

<http://www.food.gov.uk/news/pressreleases/labeltermspressfeb04>

FSA は 2002 年 7 月、商品に表示されている 8 つの言葉 fresh; pure; natural; traditional; original; authentic; home made 及び farmhouse の使用についてのガイドラインを発表した。(Criteria for the Use of the Terms Fresh, Pure, Natural etc in Food Labelling :

<http://www.food.gov.uk/multimedia/pdfs/fresh.pdf>)

今回 FSA の行った全国調査により、40%がガイドラインに従っていないことがわかった。220 の食品について検査し、全体で 40%に問題があったが、特に farmhouse (農場で作った) と traditional (伝統的) の使用に問題が多かった。

調査結果の要約 :

Use of terms such as natural, fresh etc. in food labeling (12 February 2004)

<http://www.food.gov.uk/foodlabelling/researchandreports/naturalfreshreport0204>

調査報告書全文 :

Survey report: An Investigation of the use of terms such as natural, fresh etc in food labelling (11 February 2004)

<http://www.food.gov.uk/multimedia/pdfs/labeltermsreport0204.pdf>

2 . FSA は新規食品成分としてのイソマルツロースに関する意見を募集

Views sought on novel food opinion (26 February 2004)

<http://www.food.gov.uk/news/newsarchive/isomaltulose>

新規食品がヨーロッパ市場に導入される前に、安全性の審査を行わなければならない。英国では新規食品の審査は FSA の任命した独立委員会 Advisory Committee on Novel Foods and Processes (ACNFP)が行う。FSA は飲料等の徐放性エネルギー源としてのイソマルツロースの使用申請を昨年 10 月に受け、最初のパブリックコメント及び ACNFP での 2 度の議論を経て最初の意見書を作成した。ACNFP はこの意見書に対する意見を 3 月 6 日まで募集している。意見書本文は以下のとおりである。

Application for the Approval of Isomaltulose

<http://www.food.gov.uk/multimedia/pdfs/isomaltulose.pdf>

(イソマルツロースの食品への使用に関して安全性に問題はないと結論している)

3. しょうゆ中のクロロプロパノール類

Chloropropanols in soy sauce (27 February 2004)

<http://www.food.gov.uk/enforcement/alerts/silverswan>

FSA は 2002 年 12 月に、6 銘柄のしょうゆが規制値以上の 3-MCPD (3-monochloropropane-1, 2-diol)を含むとして警告を行った。その際、高濃度の 3-MCPD を含む製品として指摘されたシルバースワンしょうゆの同一バッチ (FR-1279) で賞味期限は異なるが 3-MCPD 濃度は高いものが、今でも売られていることがわかった。そのため、このバッチの製品は賞味期限にかかわらず全て回収するよう指示した。

この製品は Food Safety Act 1990 違反であり、違反品が市場に出回っている可能性があるとして注意を呼びかけている。

2002 年 12 月の警告 : High Levels of Chloropropanols in Certain Batches of Soy Sauce (11 December 2002)

<http://www.food.gov.uk/enforcement/alerts/chloropropanolsoy>

【論文等の紹介】 書誌事項

1. 米国女性によるハーブサプリメントの使用について (2000 年)

Herbal supplement use among US women, 2000.

J Am Med Womens Assoc., 59, 17-24, 2004

2. ワークショップ概要 : 植物性ダイエタリーサプリメントの肝毒性アセスメント

Workshop Overview: Hepatotoxicity assessment for botanical dietary supplements.

Toxicol Sci., Feb 19, 2004 [Epub ahead of print]

3. ダイエット用のサプリメント製品について

Supplemental products used for weight loss.

J Am Pharm Assoc (Wash DC), 44, 59-67, 2004 Jan-Feb.

4. 1998 年のカナダのトータルダイエツトスタデー : カナダユーコン州ホワイトホースより集めた食品中の農薬レベルと摂取量推定

Canadian total diet study in 1998: Pesticide levels in foods from Whitehorse, Yukon, Canada and corresponding dietary intake estimates.

Food Addit Contam, 21, 232-250, 2004

5 . 発育初期段階で PCBs およびメチル水銀に曝露したラットは運動能不全になる
Motor Impairment in Rats Exposed to PCBs and Methylmercury during Early
Development.
Toxicological Sciences, 77, 315-324,2004